

■漢那憲和 昭和天皇が皇太子時代渡欧の際の艦長となるほどの名将ながら、沖縄差別に抵抗して政治家に転身した。

かなげんわ

西南戦争・1877＝ 琉球藩那覇区で、王府の税関吏漢那憲慎・オトの長男に生まれる。

琉球処分・1879＝ 2歳：弟憲英が誕生。この年、琉球処分で沖縄県となり、父が失業、日本嫌いで救済策にも応じず、貧窮。失意の父に替わって、行商をして家計支える母から厳しく躾けられる一方、

明治14年政変1881＝ 4歳：

新体詩抄・1882＝ 5歳：父が結核で死去。

岩倉具視没・1883＝ 6歳：教育に気を使う母によって、外戚玉那覇の漢学塾に学び、

帝国大学始・1886＝ 9歳：この年、沖縄県にも義務教育令が敷かれ、

国民之友始・1887＝10歳：那覇小学校初等科六級へ入学するや、臨時試験で四級へ飛び級。

初の対条約1888＝11歳：学制改正で初等科が尋常科となり、尋常三年生となるが、臨時試験で四年に再び飛び級する。

帝国憲法発布1889＝12歳：高等科に進んだ後も全科目首席で、

足尾鉍毒始・1891＝14歳：中学進学に反対する祖父に母が抵抗するうち、校長や恩師が祖父を説得した上、学資の援助まで申し出てくれ、卒業待たずに、沖縄尋常中学校へトップで入学。新任で教育向上めざし家庭訪問するなど、後“沖縄の吉田松陰”といわれる下国主席教諭に琉球結髪を切られ、自覚。

大本教・・・1892＝15歳：成績優等で学費免除され、

郡司千島探検1893＝16歳：学友会長(生徒会長)を務める。

日清戦争始・1894＝17歳：下国教頭が計画した革新的修学旅行で、初めて本土(京阪神地方)に訪れ、三高では大歓迎を受ける。

日清戦争終・1895＝18歳：那覇沖に連合艦隊旗艦(松島)が投錨したのを見て、無謀にも友人らとボートで訪問、歓迎される。児玉校長排斥ストライキを首謀し、首謀5人が退校処分を受けるが、(同志倶楽部)を設営し文部大臣へ建白書提出、

白馬会・・・1896＝19歳：県庁前で奈良原知事批判演説、校長は解任され、逆に知事に認められ、締切間際の海軍兵学校に入学。

八幡製鉄始・1897＝20歳：25期生の卒業式典で、品行善良賞を授与され、

Bushidou・1899＝22歳：成績優等の恩賜の双眼鏡を授与されて、卒業。練習艦(金剛)乗組、

ビア/国産化・1900＝23歳：豪州、南太平洋方面へ遠洋航海旅行シロマン体験。紳士となって帰国。巡洋艦(常盤)乗組後、

田中正造直訴1901＝24歳：祖父憲敬が死去。少尉、砲艦(橋立)に乗組み、南洋群島、韓国方面を巡航。

教科書疑獄・1902＝25歳：休暇で、墓参兼ねて帰郷し、家督相続。私立教育会総会に招かれ、知事のあと講演。中尉。

日露戦争始・1904＝27歳：大尉。(金剛)航海長となるも、赤痢で入院。

日露戦争終・1905＝28歳：回復し、\*(音羽)航海長となって日本海海戦に参加、沈着果断に艦長を補佐して注目される。

満鉄発足・1906＝29歳：日露戦争の功により、金鶏勲章、勲五等双光旭日章。年金大半を母に送付。海軍大学校乙種学生になる。

韓国反日暴動1907＝30歳：修了し、航海術専修課程に進み、首席で修了、海軍兵学校航海術教官兼監事を命じられる。

伊藤博文暗殺1909＝32歳：練習艦(宗谷)航海長として、米国・カナダ方面を巡航、沖縄移民を歓喜させて、帰国。少佐に昇進し、海軍大学校甲種学生に合格。(関東)航海長。この間、出世に有利となる鹿児島県人会からの誘いを断り続け、旧琉球王尚侯爵の五女政子と結婚。横須賀鎮守府、第一、第二艦隊連合小演習審判官陪従を命じられる。

韓国併合・・・1910＝33歳：大逆事件判決1911＝34歳：卒業。(石見)航海長心得となり、

明治天皇没・1912＝35歳：北清方面を航海。

大正政変・・・1913＝36歳：

第一次大戦始1914＝37歳：海軍軍令部参謀兼海軍大学教官となり、中佐に進級。

21ヶ条要求・1915＝38歳：長女幸子が誕生。この頃は、寄港して沖縄料理を楽しむ沖縄ファンの反薩長の海軍士官も多かった。

民本主義・・・1916＝39歳：大戦下の欧米視察を命じられ、

ロシア革命・1917＝40歳：在ケープタウンの(対馬)艦長に着任後、

本格政党内閣1918＝41歳：大戦終結で帰国。母校県立一中で講演。大佐、海軍軍令部参謀となるなど、同期のトップを走り続け、

ベトナム条約・1919＝42歳：沖縄県下を視察。特別大演習審判官。

大暴落・・・1920＝43歳：次女喜子が誕生。\*操艦術も群を抜いていたことから、ついに皇太子渡欧の御召艦(香取)艦長を拝命。

原敬首相暗殺1921＝44歳：強く具申して沖縄寄港を実現、県民意識を変え、皇太子が空手に興味を抱くなどした上、欧州方面を航海、

水平社結成・1922＝45歳：薩摩の巻返しか、なお現場の(扶桑)艦長に任命されたことで、大将への夢は断たれ、

関東大震災・1923＝46歳：加藤友三郎首相が死去して、薩摩閥内閣となり、少将昇進と同時に横須賀防備隊司令とされ、

治安維持法・1925＝48歳：三女百合子が誕生。ついに待命、予備役編入となる。天皇思召し召しか、沖縄に秩父官(陸軍中尉)を迎え、

日本時代始・1926＝49歳：沖縄に高松官(海軍少尉)、海軍大将岡田啓介を奉迎する間、沖縄の窮状救うべく政治家転身を決意、

金融恐慌・・・1927＝50歳：衆議員選挙出馬決定し、後援要請のためハワイ、北米方面へ遊説。著書「今上陛下と昭和新政」を上梓。

共産党事件・1928＝51歳：\*初の普通選挙となった第16回衆院選で沖縄地方区最高位当選、民政党内閣に属す。

世界恐慌・・・1929＝52歳：四女緑が誕生。

海軍軍縮条約1930＝53歳：第17回衆院選で再選される。

満州事変・・・1931＝54歳：民政党常任幹事となり、南米諸国を視察。東京沖縄県人会長に就任。

五一五事件・1932＝55歳：第十八回衆院選で落選。

国際連盟脱退1933＝56歳：(文芸春秋)に「所謂統帥権干犯問題」「岡田前海相の桂冠に就いて」を発表し、退役将官会から除名される。

帝人疑獄事件1934＝57歳：リベラルな提督岡田啓介が首相となり、公邸にも出入り、沖縄振興に取り組む。

芥川直木賞始1935＝58歳：後備役編入。

二二六事件・1936＝59歳：第18回衆院選に圧勝で当選し、民政党幹事、樺太シベリア方面視察団長。本土沖縄間の無線電話開通式の最初に那覇の母との会話がセットされる。

日中戦争始・1937＝60歳：第20回衆院選で当選。北支派遣軍慰問議員団団長として渡中。「今上陛下と昭和新政」発禁に。

健保+総動員1938＝61歳：民政党総務に就任。衆議院満州視察団団員として渡満。

第二次大戦始1939＝62歳：平沼騏一郎内閣で沖縄県出身初の内務政務次官に就任。議会制度審議会等五つの委員会の委員となる。

大政翼賛会・1940＝63歳：

日米開戦・・・1941＝64歳：'東条は天皇の意を解さぬ'陸軍は天皇の言うことを聞かぬ'と講演発言、特高に監視される。

・・・1942＝65歳：第21回衆院選でもトップ当選。選挙運動中、妻政子倒れ半身不随に。

敗戦・・・1945＝68歳：第87回帝国議会で\*衆議院議長候補に推されるも解散となり、政治生活を終える。

新憲法公布・1946＝69歳：公職追放となり軍人恩給停止で貧窮。マッカーサー元帥へ沖縄復帰嘆願書提出。母オトが死去。

三大事件・・・1949＝72歳：疎開先だった鎌倉の借家に、アメリカ軍人として来日した多くの県出身2世の来訪を受けるなか、

朝鮮戦争始・1950＝73歳：肺がんのため没した。